



研修医日記

作成者：梅村 孝太郎（2年次）

みなさまこんにちは。

小児科での2ヶ月の研修が終わろうとしています。

始めに子供にまつわる実体験をいくつか書かせていただきます。

1. 高校生の頃、同級生の弟に足の臭いがキツすぎたらしく近づくたびにくさいと言われておりました。後日あった時はそれほど臭わないようにしていたのに、同じような態度を取られ傷ついた思い出があります。
2. 大学生の頃、友達付き合いでボルダリングをやっていると近所のお子さんが飽きたらしく他の遊びをしようとしていました。一緒になって遊んでいると突如お腹を殴られ始めあまり痛くないので笑っていると辺りに落ちていた工具を手に取りまた殴りかかってくるのです。止めてと言っても小悪魔の様な笑顔のまま殴り続けられ、ホンマ子供怖いって思っていました。

小児科研修が始まると、診察室に入るやいなや泣き始める子供もいれば、他のことに興味を示して診察をなかなか始められないような状況もありました。しかし小児科の先生はうまく誘導して診察や必要な所見を取って2ヶ月でできるだけ近づけるようにというのが最初でした。

アンパンマンに頼ることがほとんどでしたが少しは子供を診ることができるようになってきました。子供が泣いたり、ぐったりしていたりと、パッと見て判断できるようになったかなと思います。

結局子供っていうのは正直で僕の足は相当臭く、お腹は殴りたくなるようなお腹だったということだったのでしょう。2ヶ月の研修で今まで不思議に思っていたことが解決されました。

クリクラの学生も7月で最後になってしましますが、むつ病院の魅力を伝えられるようにがんばります。今まで実習や見学に来ていただいた方は本当にありがとうございます。

※日記の作成日と当ページへの掲載日は異なる場合があります。